放課後子どもプラン推進事業の評価について

事業名	1　千葉市放課後子ども教室推進事業（放課後子ども教室）
事業目標	放課後に小学校の余裕教室等を活用して子どもたちの安全安心な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進する。

安全安心な居場所づくりをすすめることができたか。

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(1)開設率	居場所を提供した場所が増えたか	全小学校（116校）	全小学校（113校）	全小学校（113校）
分析・方向性	・全校実施を維持している。今後も継続していく。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(2)参加児童数	居場所を提供できた人数が増えたか	6,545人	6,542人	6,447人
分析・方向性	・参加児童数はほぼ前年度並みを維持している。 ・全体の傾向として、運営母体の人材不足を理由に「保護者の手伝い」を参加条件としている学校が増えつつあり、必ずしも希望する全ての児童が参加できていない状況にある。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(3)指導員・協力員数	地域の方々の参画を得て居場所づくりを進めることができたか	4,919人	4,704人	5,080人
分析・方向性	・活動に協力してくれる地域人材の多くが、他の地域活動を兼務しており、年々、高齢化も伴って負担感が増していることから、多くの学校で、新たな人材確保、後継者育成に苦慮している。広く事業周知と協力依頼に努めるほか、人材確保のための支援策を講じていく。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(4)特別支援を要する児童の参加人数	特別支援を要する児童に放課後の居場所を提供することができたか	23人	30人	29人
分析・方向性	・全ての学校で参加可能としているが。支援の必要度やそれを支える人的体制の状況により、子どもの安全確保が困難な場合には、実行委員会の判断により、参加不可としている場合がある。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	25年度
(5)平均実施日数	居場所を提供した時間が増えたか	22.2日	21.2日	21.2日
分析・方向性	・高齢化や人材不足により協力者の負担感が増加しており、実施日数の確保に課題がある。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(6)指導員・協力員一人あたりの児童をみる人数	児童の活動支援及び安全確保等に十分な人数を配置できたか	3.90人	3.77人	3.75人
分析・方向性	・協力員等は専門的な資格や経験を有しないボランティアであり、児童の安全確保の徹底及び協力員等の負担軽減等を図るため、さらなる人材確保に努める必要がある。			

事業名	２　放課後児童健全育成事業（子どもルーム）				
事業目標	保護者等が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学しているおおむね10歳未満の児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る。				
放課後の安全安心な居場所づくりが進んだか	評価の観点		推移（３か年）		
	(1)登録児童数	安全安心な居場所を提供できた人数が増えたか	24年度	25年度	26年度
			5,892人	6,258人	6,556人
	分析・方向性	受入枠を増加することにより待機児童の解消を図ったため、利用児童数が増加した。 今後も働く女性の増加により、更なる利用児童の増加が見込まれることから、児童数の動向を見ながら、施設整備等を進めていく。			
	評価の観点		推移（３か年）		
	(2)延長時間利用児童数	利用延長することにより、安全安心な居場所を提供できた人数が増えたか	24年度	25年度	26年度
			2,294人	2,365人	2,402人
	分析・方向性	保護者の就労形態の多様化に伴い、延長時間を利用する世帯が増加しているため、引き続き延長時間の開設を継続していく。			
	評価の観点		推移（３か年）		
	(3)登録する障害児数	特別支援を要する児童に放課後の居場所を提供することができたか	24年度	25年度	26年度
			221人	252人	240人
	分析・方向性	障害児の受入れに関して、特に定員を設けておらず、原則として障害を理由に入所拒否はしていない。今後も入所にあたっては面談を行い、ルームにおける指導員等の配置状況や利用人数、施設の状況等を総合的に勘案し、必要に応じてルームに対する補助指導員等の配置や施設改善に努めていく。			
	評価の観点		推移（３か年）		
	(4)子どもルーム設置数	より多くの安全安心な居場所を提供できたか	24年度	25年度	26年度
			108小学校区 123か所	108小学校区 124か所	108小学校区 123か所
	分析・方向性	待機児童が多い地区に１か所子どもルームを増設することで、待機児童の解消を図った。今後も引き続き待機児童が多く見込まれるルームについては、施設改善等の対応を進めていく。			

事業名	３　放課後子ども教室と子どもルームの連携
事業目標	放課後子ども教室推進事業及び放課後児童健全育成事業の総合的なあり方の検討を行うための推進委員会の設置を行うとともに、域内で実施される放課後対策事業に関わる事業関係者の資質向上や情報交換等を図るための研修を行い、放課後子どもプランの推進を図る。

放課後子ども教室と放課後児童健全育成事業の連携が進んだか

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(1)放課後子ども教室参加児童と子どもルーム登録児童で共同で事業を実施した学校数	放課後子ども教室と子どもルームで事業連携が進んだか	4校	4校	2校
分析・方向性	相互の連携については、各々の現場の判断に任せているが、「放課後子ども総合プラン」において一体型を中心とした両事業の計画的な整備が求められていることから、両事業の連携について、様々な機会を捉えて周知を図るとともに、事業の共同実施を推進するための新たな支援策を講じていく。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(2)放課後子どもプラン合同研修会の実施回数	放課後対策事業に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者の資質向上や情報交換等を図ることができたか	1回	1回	1回
分析・方向性	両制度で個別に研修事業を実施しているため、合同研修会は、日程調整の上でも現行の回数で良いと考えている。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(3)放課後子ども教室と子どもルームの両方に参加・登録する児童数	(1)放課後子どもプランにより安全安心な放課後の居場所づくりが進んだか (2)子ども教室とルームの連携が進んだか	711人	734人	807人
分析・方向性	放課後子ども教室は地域の協力者が運営しており、負担感から人材不足が生じ、すべての児童の受け入れに課題が生じている。これらを踏まえた運営支援に取り組み、児童が両事業に参加しやすい環境づくりに努めていきたい。			

評価の観点		推移（３か年）		
		24年度	25年度	26年度
(4)全児童数に占める放課後子ども教室又は子どもルームに通う児童の割合	(1)放課後子どもプランにより安全安心な放課後の居場所づくりが進んだか (2)子ども教室とルームの連携が進んだか	22.7%	23.6%	25.1%
分析・方向性	両制度の利用については、保護者の判断による部分も大きいが、特に放課後子ども教室の活動支援等により、全ての児童が参加しやすい環境づくりに取り組むとともに、利用率向上のための制度の周知及び事業の見直し等に努めていきたい。			